

# 100周年から120周年まで、20年の歩み

奈良教育大学は、この秋に創設120周年を迎えます。現在、記念事業の準備を進めています。日頃の読者の方々のご支援に心から感謝を申し上げます。

前回の「周年行事」は文字通り100周年でした。時代が昭和から平成へと移り、平成20年に記念の年を迎えることとなりました。皆さんとともに、この20年間の奈良教育大学の歩みを振り返る機会になればと思います。

本学は、明治21(1888)年の奈良県尋常師範学校の開校を創立の時としています(さらに、その前身となる『寧楽書院』にその起源を遡ることができます)。本学の創立記念日は11月18日と定められていますが、この日は師範学校の開校記念日です。戦後の昭和24(1949)年、師範学校は大学(奈良学芸大学)になりますが、法令上の大学の設立日である5月31日ではなく、11月18日に「奈良師範学校開校60

年記念式」を兼ねて、開学記念の式典が行われています。師範学校から学芸大学への連なりを強く意識した、当時の方々の想いが伝わって来るようです。

さて、最近の20年間で、本学に限らず、国公立の大学の有り様は大きく変わりました。奈良教育大学では、平成7年度に新課程と呼ばれる「総合文化科学課程」を設置しました。当時は今日とは逆に、全国的な教員需要の低迷期を迎えており、教員養成を目的としない課程を設置したのですが、決して消極的な対応ではありませんでした。今で言うところの文理融合型の、奈良の特色も生かした新課程であったと思います。

その後、教育大学を取り巻く状況はますます「悪化」しました。平成10年からの3年間、全国の教育大学、教育学部には、教員養成課程定員の5千人削減に続く

て、平成13年には府県域を超えた再編統合という、2つの荒波が襲いました。『教員の養成は量よりも質だ』ということをつくづく実感したときでもありました。

その荒波を乗り越えて、平成16年4月に国立大学は法人化され、新たな時代を迎えました。各大学は中期目標、中期計画を定めています。法人化5年目の今年は、これまでの実績をまとめるといって大変大切な時期にさしかかっています。と同時に、最近では奈良県を含む大都市圏では、教員採用数の急増期を迎えています。

では、「質より量」の時代になったのでしょうか。そうではないと思います。

今、本学は、教員養成教育の質の向上に正面から取り組んでいます。その先駆的な取り組みのキーワードは、奈良教育大学オリジナルの「カリキュラム・フレームワーク(Curriculum Framework



柳澤 保徳  
奈良教育大学 学長

for Expert Teachers)です。4年間の学びの成果として、新任教師に求められる目標資質能力基準をあらかじめ示し、学生の皆さんが各授業科目から何を学び、どのような資質能力を身につけたかを自覚しつつ、自ら成長することを目指しています。「大学教員が何を教えたか」ともに、「学生が何を学びどのような力をつけたのか」を明らかにすることが、大学教育の新しい潮流となっています。

そして、今年4月には、四半世紀前に設置された大学院を改組・拡充し、新しく職大学院(教職開発専攻)を開設しました。修士課程とともに、大学院における高度専門職業人としての教員の養成に向けて出発しました。

創立以来120年を経て、奈良教育大学は名実ともに、新しい時代への船出の時を迎えようとしています。

## ならやま 2008年夏号

## CONTENTS

- 3 【学長コラム】 100周年から120周年まで、20年の歩み 学長 柳澤 保徳
- 4 【大学の取り組み】 ちょっと違う教職大学院の教育実習 教職開発講座 教授 安藤 輝次
- 5 【大学の取り組み】 修士課程の新たな出発 ～大学院改組～ 大学院改組準備委員長 上野 ひろ美
- 6 【大学の取り組み】 地域連携による教員免許状更新講習試行について 免許状更新講習実施検討プロジェクト副座長 藤田 正
- 7 写真で見る大学120年 その2 大正・昭和期
- 8 【ラボ・レター】 学校現場の課題に応えるために 大学レベルの英語 教育現場に生かせる実践力を 現代の教育事象を社会学する 教職開発講座 准教授 粕谷 貴志  
英語教育講座 講師 パーキンス・ロバート  
教職開発講座 講師 松井 秀史  
学校教育講座 准教授 渋谷 真樹
- 10 【留学生レポート】 ルーマニアでの半年間 アメリカ留学体験記 日本留学の経験 日本での貴重な経験と留学生生活 総合教育課程生涯学習コース 4回生 手代木 丈伸  
総合教育課程生涯学習コース 4回生 小野田 奈央  
特別聴講学生(フランス・リヨン第3大学) ビリオン ヴァンサン  
学校教育教員養成課程教育・発達基礎コース 2回生 テインティンヌエ
- 12 【ひと・あれ・これ】 想いは必ず伝わる 未熟な縁の下の力持ち 三郷市立三郷小学校 城本 雅司  
日本ビー・ケミカル株式会社 正木 祥子
- 13 【課外活動共用施設完成】 広がるサークル活動 【課外活動】 ウインドアンサンブル サークル活動を通じて学んだこと 学校教育教員養成課程言語・社会コース4回生 文化会会長 旧田 克也  
総合教育課程 文化財・書道芸術コース3回生 天池 規夫
- 14 【附属校園では】 幼稚園 大学との連携をいかした幼児教育 小学校 子どもの健やかな成長に向けて 中学校 ESDの理念を学ぶ教科活動と学校行事 附属幼稚園 教諭 山本 祐子  
附属小学校 教諭 小畑 治  
附属中学校 副校長 植村 啓介
- 16 【大学の仲間たち】 コミスジ 自然環境教育センター長 前田喜四雄

### 表紙紹介

## 走

この作品は、上部プロソンスの具象形態と、下部木彫の幾何形体で構成されています。ご存知、奈良教育大学の学章は天平雲であり、「天平雲の上を駆け抜ける」というイメージです。

基部の木彫部分は、戦国時代からある日本の家紋「違い角」からインスピレーションを得て立体化しました。設置されているのはR12文美棟エントランスです。エントランスホールは、矩形の窓枠、壁面・床面・床面にも矩形が多用された明るい吹き抜け空間で、彫刻を置くにふさわしく、あえて幾何形体も使って構成されているという点で、この作品がしっくりとなじんでいます。

この表紙では、光に向かって走る女性の像が、意外なアングルで斜め後方から写真に撮られて、今にも外に走り出て行きそうな勢いです。

折しも、北京オリンピック開幕の夏。古代オリンピックでは、競技者は全員全裸で走っていたそうです。

【解説】  
美術教育講座 教授 西野 慎二

表紙題字 名誉教授  
池田 桂鳳